

仲間としてかけがえのない 時を過ごすYキャンプ

廣田 康人

Hirota Yasuhiro

三菱商事株式会社
代表取締役常務執行委員



▼ YMCAキャンプとの出会い

YMCAキャンプとの出会いは小学生4年生の時。余りに「にぶい」小学生だった私に母が危機感を抱き、どこで聞きつけたかYMCA活動に参加させたのがきっかけでした。名古屋Yの根ノ上キャンプ場が小学校から高校に至るまで、私にとっての「キャンプ場」でした。往々にして学校では、運動が苦手だったり、にぶい子どもは肩身が狭いものですが、YMCAのキャンプではそのようなことが全くなく、いつも元気なリーダーが明るく優しく接してくれてとても居心地のよいものでした。何と言っても、いわゆる指導者をキャンプネームで呼ぶこと自体（その時のリーダーは「きんぴら」と言いました）、幼い私にとっては大いなるカルチャーショックで、なにか自分の立場が変わったような気がしたのを覚えています。

▼ YMCAリーダーに憧れて

リーダーに対する大いなる憧れを抱き、東京に出て大学生になってから最初にしたのは、大学の近くにある山手Yの受付に「リーダーになりたいんですけど」と訪問したことでした。学生の時には山中、野尻、赤城、罌堂庵（今の妙高）、数馬、猪苗代、尾瀬・・・と沢山のキャンプ場でメンバーとそして仲間のリーダー達と過ごしました。成長途中（今もそうですが）の自分がどれだけのことを出来たのかは全く自信ありません。ただ単に歌い、語り、さまざまな活動を一緒にしていただいただけのように思います。

でも、圧倒的な力を持つ自然の中で、同じ時を過ごすことは何にも代えがたい意味のあることでした。生意気盛りでしたので、組織キャンプ論なども学び、実践しようと考えていたと思いますが、そんなことより仲間として同じ時を過ごしたことが遥に貴重であったと今振り返って思っています。

また、家内もメンバー、リーダーだったのですが、今では野尻学荘のマザーとして毎年、夏を野尻で過ごしております。子供たちもメンバー、リーダーとして活動、今でも関わりを持ってくれており嬉しく思っています。

会社でもYの協力を得て、「母と子の自然教室」（一人親のお母さんと子どもを招待するキャンプ）や「フレンドシップキャンプ」（東北被災地の家族を招待するキャンプ）を展開しています。そういった場でも何時も笑顔で同じ時を過ごすことの大切さを感じています。



現在も三菱商事と東京 Y M C A の協働キャンプに参加している。

▼世界の平和はキャンプから始まる！

キャンプは青少年に多大な影響を与えるものと確信しています。でも、同時に世代を超えて楽しめるものとも思います。キャンプの楽しみを子供やリーダーだけのものにしておくのはもったいない。現在でもファミリーキャンプなどは盛んに行われていますが、年齢にかかわらずキャンプ場に足を運び、時を過ごすことが出来ればこんな素晴らしいことはないように思います。

働き過ぎとか言われている会社員も、子育てと仕事の両立に悩んでいるお母さんも、会社を卒業したシニアもキャンプでは新しい自分を発見することが出来るでしょう。少子高齢化とか言われますが、年齢に拘らず同じ時を過ごすことの出来るキャンプをYにはどんどん展開して欲しいと思っています。世界の平和はキャンプから始まるのではないのでしょうか。

Profile



1980年 早稲田大学卒業、同年三菱商事株式会社入社。

2010年 執行役員総務部長。

2014年より代表取締役常務執行役員。

小学生の頃から Y M C A メンバーとして参加し、大学入学と同時に、東京 Y M C A 山手ランチリーダーを始め。三菱商事と東京 Y M C A が協働する「母と子の自然教室」に毎年ボランティアとして参加し、社員と一緒に汗を流す活動を継続している。